

昭和55年度漁業後継者対策推進事業の実施状況

この事業は、表にも示されるように沿岸漁業等振興諸事業の推進とあいまって、新しい知識と技術を持った漁村の人づくりが急務となっているため、次代の漁業の担い手である漁村青少年を対象に、漁村青少年グループの組織化を図るとともに組織的な学習及び交流活動を強化し、漁業後継者としての地域自立経営型漁業者を育成することを目的として実施したものである。

昭和55年度漁業後継者対策推進事業実施状況

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
交流学習会	7月14日 7月15日 7月16日	沖繩本島地区 宮古地区 八重山地区	105名 30名 30名	市町村漁協 青年部、婦人部 研究グループ 市町村漁協 研究グループ 市町村漁協 青年部、研究グループ	7月14日～19日までの6日間の日程で本島・宮古・八重山の3会場において、徳島県、牟岐東漁協長 大久保鶴男氏による「組合員参加の漁協運営について」と題して、講演と“66方式”による交流学習会が開催された。当日の参加者は、各市町村漁協青年部、婦人部、研究グループで会場を満たし、個々の発言及び意見交換助言等が有意義に終わった。
少年水産教室	8月4日～9日 (6日間)	漁業者センター	33名	八重山、沖繩本島地区漁協組合員の子弟(中学2～3年生)	少年水産教室(夏期学級)は夏休みの期間を利用して、漁村の子弟に漁業に関する初歩的な知識及び技術実習を習得させ、次代の漁村建設を担う漁業後継者を育成するのが主目的である。本年度は宿泊施設の都合で25人の募集に対し、42人の申込みがあり人選に困ったが、最終的には33人が参加した。
技術交流会	9月11日～12日 (2日間) 10月7日～9日 (3日間)	糸満漁協 糸満 1件 久米島漁協 久米島 1件	25名	八重山漁協青年部 3人 糸満漁協青年部 10人 与那原漁協 2人 知念漁協 1人 久米島漁協 22人	沖繩地区、八重山地区に設置された漁村青少年協議会の事業計画で、本年度は次の技術交流会を実施した。 1. 底延縄漁業の省力化及び漁撈実習 ① ラインホーラーの取り扱い及び漁具、漁法の実技指導を行なった。 ② 糸満漁協青年部、振興会、漁協職員による漁業懇談会を行ない、交流をはかった。 2. トビイカカ自動釣機の実習 ① 仲里村沖で「水試、試験船くろしお」に乗船して、自動釣機の効能について、指導を受けその効果を確認した。 ② イカ釣漁業者の使用漁具を展示し、漁具漁法等の相違について意見交換した。 ③ 小型イカ釣船の今後の装備について検討し、漁協の見学を行なった。

事業項目	実施時期	実施場所	参加人員	参加者	実施状況
漁村青壮年 婦人活動実 績発表大会	1月3日	奥武山会館	250名	市町村漁協 青年部、婦人部 研究グループ 各関係機関	漁村の青壮年婦人グループによる漁業技術及び漁家生活に関する改善等、日頃の活動実績を通して発表し、地域相互間の交流をはかる県大会が奥武山会館で開催された。 今回で第5回目を迎え、それぞれ地区代表も充実した体験内容を持ち有意義な発表会であった。
特別研修	1月25日～ 2月7日 (14日間)	長崎県	1名	伊是名漁協青年部	長崎県において、水産物加工の特別研修を実施した。 参加者は、伊是名漁協青年部の東江清勇氏で研修内容は、①煮干品及び雑魚の加工利用 ②製品の変質防止と、食品流通関係が主で早速県内で活用が期待される。
青年水産 教室	2月24日	名護市	45名	市町村漁協 青年部、研究グループ 生産グループ	一元水産研究所長 小林歌男氏による「沖縄県養殖漁業の展望について」と題しての講演と東江清勇氏による特別研修報告を行ない、当日は漁協青年部が中心に講演や研修報告についての質疑応答が活発に行なわれた。
"	3月13日	糸満市	22名	市町村、漁協、 青年部	沖縄水産高等学校教諭 上田不二夫氏による「漁場利用と資源管理」 「糸満漁業の歴史と明日の水産業」と題して、シマ社会と海・漁場管理の歴史的経過、糸満漁業が沖縄県に果して来た役割と明日の水産業は資源培養型、省経費型漁業等漁業種目を複合的に組み合わせる漁業でなければならぬ旨の講演があった。
"	3月31日	国頭村	17名	市町村、漁協、 青年部	琉球大学助教授 西島信昇氏による「沿岸漁場利用について」沖縄県の海の特性を活用すべきで、サンゴ礁域の利用と再生産、保護管理等多岐にわたった講演があった。